



インスピレーションになろう

# 帯広西ロータリークラブ

## 第2236回例会

### 2018.7.26

# 会報



■RI第2500地区テーマ■

行動するロータリー、つながるロータリー  
～ロータリーの未来を考えよう～



■クラブ・テーマ■

常識を疑い、可能性に挑戦する

### ゲスト紹介

佐藤 聡 会長

- RI第2500地区第6分区ガバナー補佐 曾根 一様

6月9日の会長幹事会で佐藤会長はRI会長のテーマ「インスピレーションになろう」に関して「常識を疑い新たな発想で輝く」という解釈をしていたことを改めて紹介。さらに西クラブとして家族ぐるみの交流を重視し銘酒会やゴルフを通して親睦を図るというお話もあったが、これはクラブ運営にとっての基本であり大事なことである。



また帯広南クラブの女性キャビネット、福岡氏100%出席の話、音更クラブの新会員目標9名のお話なども、私たちにとってインスピレーションである。

西クラブに於いてもインスピレーションはあり、本日の各テーブルにある「人の縁」の文章なども佐藤会長が準備されたものと伺ったが、他クラブにとってインスピレーションになるものである。

- ガバナー補佐セクレタリー 西田 重人 様

### ビジター紹介

内海仁司 副会長



RI第2500地区 幹事  
柴田 隆視 様



地区大会実行副委員長  
竹田 晴司 様



### 会長報告

佐藤 聡 会長

皆様こんにちは 第4回目の会長挨拶となります。

前回の例会後の7月20日昼間に兄の会社の取引先交流パーティーがあり日本全国から多くのお客様を招き盛大に開催され多くの方と交流し親睦を深めました。

その夜は、ローターアクトクラブの例会に参加しロータリアンのご子息や各企業の若手社員の皆様と交流を深



め楽しいひと時を過ごすことが出来ました。親会であるロータリアンの前で必死に頑張っている彼らを微笑ましく見ながら、十勝の次代を担う若者たちの成長に何かしらのお手伝いが出来ればと感じました。

翌日の7月21日には弊社創業70周年の記念祝賀会を開催いたしました。支え続けて頂きましたお客様や設計事務所並びに同業者そして卓越した技術と安全管理のもと施工に当たって下さいました協力業者の方々に心から感謝を申し上げます。170名の出席者の中には帯広西ロータリークラブの会員が13名おり、地域のご縁と云うものを実感させて頂いた一日となりました。

そして、翌日の22日にはRI第2500地区の米山記念奨学会セミナーとロータリー財団セミナーが開催され、ロータリークラブの目指す奉仕活動の重要性を改めて認識させて頂いた一日となりました。実は、不思議な縁で弊社の祝賀会終了後に米山記念賞セミナーの講師を務めた女性と偶然お逢いし、「米山奨学会への寄付が日本の地区内で下から2番目」という現状について様々な視点からお話しさせて頂いたという経緯があります。前日にお逢いしていることもあり親近感があったのか？講師が女性だったせいなのか？講演後に感想を聞かせて欲しいとの申し出がありましたので昨日所感を贈らせて頂きました。

更に、本日はガバナー補佐公式訪問例会と云う事で曾根一様がお越しになっておりますが、実は曾根さんと私は同じ文系の大学の同窓生であり同業者という奇妙なつながりがあります。

ということで今週は「人の縁」という言葉を紹介させて頂きます。

「縁は求めざるには生ぜず 内に求める心無くんば  
たとえその人の面前にありとも ついに縁を生ずるに  
至らずと知るべし」

(縁や運というものは 求める心の強さ努力に応じて  
その人に合ったものが見つかるものだ)

会員皆様方におかれましては、日頃の生活の中で様々な人と巡り合い言葉を交わしコミュニケーションを深めることでもっと素晴らしい世界が広がるという事を実践して頂きたいと思っております。

以上簡単ですが、会長報告とさせて頂きます。



会長 佐藤 聡  
幹事 小谷 典之

副会長 内海 仁司  
副会長 渡部 省一

会場監督理事 田中 耕吾  
プログラム委員理事 谷脇 正人

発行：広報委員会  
委員長 菊池 俊博 (副)松田 貴史



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

## 会務報告

小谷典之 幹事

- ①帯広北RC、夜間例会開催のご案内  
日 時 7月20日(金)午後6時30分  
場 所 ホテル日航ノースランド帯広
- ②帯広東RC、夜間移動例会開催のご案内  
日 時 7月24日(火)午後6時30分  
場 所 プレミアホテルCABIN帯広
- ③帯広南RC、7月30日(月)の例会は、休会と致します。  
帯広東RC、7月31日(火)の例会は、休会と致します。
- ④帯広西RC、移動例会開催のご案内  
日 時 8月2日(木)午後0時30分  
場 所 アップアイランド  
(西25条南3丁目15 TEL37-7711)  
※当日は、運動しやすい恰好、運動靴をご持参下さい。
- ⑤帯広東RC、移動例会開催のご案内(道の日清掃)  
日 時 8月3日(金)午前10時  
場 所 帯広中央公園南側  
※尚、8月7日(火)の繰上げ例会と致します。



とが中心となりますので、練習の出来る格好でお越し頂きたいのと、クラブをお持ちの方はご持参頂きますようお願い致します。

なお、昼食は藤本会員にお願いしまして、三楽の味噌ラーメンとチャーハンを出張サービスして頂くことになっておりますので、お楽しみにしてお越し下さい。

## ●ニコニコ献金

大友広明 会員

佐藤 聡 会長

7月21日に弊社の創業70周年記念祝賀会を開催いたしました。地域の縁と人の縁に心から感謝申し上げます。

内海 仁司 副会長

本日、副会長初仕事です。

柳澤 一元 会員

北洋はまなす会ゴルフコンペでグロス99、ネット75で優勝しました。ゴルフは下手になりましたけどこれから楽しもうと思います。

久保 忠正 会員

今夜、銘酒会が正次郎で開かれます。新しく来られる方もどうぞお越し下さい。

増井 信也 会員

本日、担当例会で卓話します。よろしくお願ひします。

大友 広明 会員

久しぶりのニコニコ発表です。



## 委員会報告

### ●健康増進委員会

松原宏樹 会員

皆様こんにちは。すでにご案内させて頂いておりますが、来週8月2日はアップアイランドにおきまして、移動例会を行なわせて頂きます。基本的には皆様に練習をして頂くこ



ニコニコ  
献金

7月26日

12,000円

## ◇プログラム

### 「社会奉仕を考える」 社会奉仕委員会 増井信也 委員長



先日の理事就任挨拶の時にお話しましたが、本日は今年度の社会奉仕委員会の活動について、皆さんにお話ししたいと思います。

RCが世界で最初に行った社会奉仕活動は、1907年にシカゴの市役所に公衆トイレを設置したことでした。最近の西RCの社会奉仕活動ですが、入れ歯の名前入れ、植樹活動、歳末助け合い募金、エコキャップ運動です。他のRCの活動を少し調べてみました。西クラブ同様に植樹活動、北と東と音更は合同で行っています。植樹と似ていますが、花の苗を小学校に植える支援を花プロジェクトと称してやっているクラブもありました。施設に車椅子を寄付したり、米山ではないクラブ独自の奨学金制度を設けているクラブもあるようです。吹奏楽や合唱の音楽祭の主催を行ったり、地域の祭りの支援を行っているクラブもありました。今年度のPET地区協での話ですが、社会奉仕活動はマンネリ化しやすいため、まずクラブの行動を見つめ直して、地域のニーズに合わせた活動をして欲しいとい

うことでした。その話を受けて、今まで継続してきた活動を一旦白紙に戻し、植樹活動と義歯の名前入れに関しては、今年は保留させていただくことにしました。

今年度の社会奉仕はどうかを考える上で基本となったのが、当クラブ佐藤会長の方針です。私たちが継続的に企業運営をさせて頂いている地域に対し貢献し、更なる活性化に寄与していきたいという社会奉仕に対する方針を打ち出されましたので、地域活性化をキーワードに奉仕活動を考えることにしました。

まず今回の奉仕のテーマを考える上で、地域の活性化を念頭に判断基準を自分なりに作りました。まず当たり前ですが、集客力と経済性。今後発展する可能性があること。地域に根付いていること。個人的なサポートにならず、多くの人に奉仕できること。最後に現実的には予算内でできることです。

まず考えたのが十勝と言えば農業でした。ところがあまりにも大き過ぎるし、この分野で10万円そこそこで奉仕できることはないと思いました。

その次がスポーツでした。オリンピックの金メダリストを



排出している土地ですし、スポーツで行けないか、色々調べて見ることにしました。そうすると、スポーツ庁を中心に国の支援があることが分かりました。スポーツ庁は、スポーツ施策の総合的な推進ということで大きな二つの柱を打ち出しています。1つ目が、スポーツの成長産業化、2つ目が、スポーツ参画人口の拡大、地域社会の活性化、障害者スポーツの推進です。

スポーツの成長産業化としては、二つの事業があります。1つ目がスポーツ産業の成長促進事業で、2つ目が大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA)創設事業です。スポーツ産業の成長促進事業は、地域活性化を図るのが目的ですが、4つに別れています。2つ目の日本版NCAA創設事業ですが、日本の大学スポーツは、一部のスポーツを除いて正直人気がありません。日本の大学スポーツは、大学ごとあるいは競技ごとに固まっていた横の繋がりが弱いことが原因で一般的に普及していないのではないかと、大学全体と競技全体両方を統括する組織をアメリカに習って作ろうという話です。そうすれば、アメリカのように、もっと大学スポーツが盛り上がるのではないかと、このことだと思います。また最近、巷の話題になっている日大アメフト部の危険タックル問題も、この組織があれば問題は起こらなかつただろうという評論家もいました。成長促進事業の四つの中身ですが、1番目のスタジアム・アリーナ改革推進事業ですが、端的に言うと、今までのスタジアムは単機能型なので多機能型にする。行政主導から民間活力を導入する。収益性改善を目的としています。2番目の地域の指導者を主体としたスポーツエコシステム構築推進事業は、元アスリートなどの地域の指導者を活用しながらスポーツ環境の充実を図り、スポーツ人口の拡大につなげる自律的好循環の創出を目的としています。3つ目のスポーツビジネスイノベーション推進事業は、スポーツ現場を活用した新規ビジネスの創出や経営人材の育成などを目的としています。4つ目のスポーツコンテンツ海外進出促進事業は、日本独自のスポーツ、おそらく相撲や武道系を想定しているのではないかと思います。それらのスポーツの海外展開や現地から選手を獲得して、現地にそのスポーツの放映権を販売することなどを目的としています。

二つ目の柱、スポーツ参画人口の拡大、地域社会の活性化、障害者スポーツの推進です。まず1つ目、スポーツ人口拡大に向けた民間プロジェクトは、20歳代から40歳代のいわゆる働き盛りの世代のスポーツ実施率が低いため、その年代をターゲットにした事業です。2番目の子供の運動習慣アップ支援事業は、幼児、児童に運動スポーツの習慣を付けさせ、その保護者の世代にも運動することの重要性を啓発することが目的です。3つ目はスポーツによる地域活性化推進事業です。その中の運動・スポーツ習慣化推進事業というのは、地域の実情に応じ、住民に対して、スポーツに興味関心を持たせ、健康増進を図るために地方公共団体の取り組みを支援する事業です。もうひとつのスポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業は、地方公共団体、スポーツ団体や観光団体などが一体となって、いわゆるスポーツツーリズムを活用し地域の活性化を促進する事業です。4番目は、東京オリンピックに関する事

業で、5番目は文字通り障害者スポーツ推進の事業です。結局国が考えているのは、スポーツを成長産業にすると同時に、国民に運動をさせることによって生活習慣病や認知症を減らして健康寿命を伸ばし、医療費を減らしたいということだと思います。

それでは十勝の話に戻りますが、十勝地域のスポーツにおける優位性を考えて見ました。まず施設が充実しています。後でも出てきますが、例えばサッカーの大会をする上で、サッカーコートは十勝以上に多く取れる地域は他にはありません。協会病院の整形外科の外来に、札幌医大のスポーツ外来の専門医が定期的に来ています。札幌医大はJ〇のサポートもしておりますので、レベルの高いスポーツ外来を十勝でも受診することができます。また、これは現在構想の段階なので詳しいことは話せませんが、アスリートを医療の面からサポートする施設を市内に作る話があります。話がまとまれば東京オリンピックの頃までにはできるかもしれません。

スポーツが地域活性化に貢献する可能性について話してきましたが、これらの話を踏まえて、実際に西クラブとして、どのスポーツをサポート対象にするか考えてみました。ここからは、私自身の独断と偏見が入っておりますのでご了承ください。四つ検討しました。スピードスケート、陸上、野球、そしてサッカーです。まず、スピードスケートですが、利点として他の地域よりも競技人口が多いです。小学校は体育の授業で必修ですし、少年団も多いです。清水宏保や高木姉妹など十勝出身のメダリストがいます。ただ、個人競技でサポートが偏り、年齢とともに競技人口も減ります。全国レベルの大会を行っても、一般のお客さんは集まる見込みは正直ありません。高木姉妹などが来れば、一次的に人が集まるかもしれませんが、持続性が期待できません。陸上ですが、意外と陸上のレベルは高いようです。私は正直福島千里しか知りませんでしたが、最近でも小中学レベルで全国大会に出場している選手もいるようです。ただ、高校以上になると飛び抜けた選手は十勝を出てしまいます。また、陸上も個人的なサポートになってしまいます。十勝では大きな大会もなく、地域の活性化に繋がる見込みはあまりないかと思います。次に野球ですが、30年前までは良かったと思います。競技人口は下がる一方です。この表は、各スポーツにおける中体連の男子選手の登録数を年度でグラフにしたものです。平成22年度から28年度までですが、赤が野球で右肩下がりで、青がサッカーは25年をピークに若干下がり傾向です。これは26年がW杯のブラジル大会で盛り上がった時期であり、そこまでは増えていたのですが、ブラジル大会では日本は惨敗したことと、24年から中学校で、体育の授業でダンスが必修になったことが影響しているのではないかと個人的には考えています。最近の習い事では、ダンスが一番伸びているらしいです。その他、バスケ、テニス、卓球、陸上は横ばいです。検討の結果、総合的に考えるとやはりサッカーが良いのではないかと結論に至りました。

十勝地区でのサッカーの利点について説明します。まず、競技人口が多いです。十勝全体で約4000人です。道内では札幌に次いで2番目。人口比では札幌の2倍程度です。また、先ほどもありましたが、施設が充実しているため、現在

15歳以下のクラブユースサッカー選手権の全国大会が毎年十勝で行われています。これはご存知の方もいると思いますが、2011年以前は、福島Jヴィレッジという施設で行われていた大会ですが、震災の影響で施設が使えなくなったため、急遽十勝でやることになった大会です。11面のサッカーコートが必要で、十勝以外で面数を確保できる地域がなかったために十勝で行われるようになったそうです。また平成27年には、全国中学サッカー大会が行われました。十勝地区のサッカー協会も、とかちブランドのサッカーを作りたいと、一生懸命活動しています。とかちDREAM2020と標語を掲げています。その中にDREAMとして、専用サッカー場とフットサル場の建設、東京オリンピック・パラリンピックの海外チームのキャンプ誘致、全国大会の誘致、とかちからの日本代表の育成を目標に掲げています。ご存知の方もいると思いますが、実は十勝には、将来Jリーグを目指しているチームがあります。北海道にはコンサドーレだけではありません。北海道十勝スカイアースと言います。勝毎にも記事が出ていましたので、ご存知の方もいらっしゃると思います。昨年までは十勝FCという名前でしたが、今年から北海道十勝スカイアースと改名しています。左がチームのエンブレムとロゴで、右がマスコットで十勝帯広市の鳥ひばりをモチーフにしているそうです。元ヴェルディ川崎のゴールキーパーだった藤川氏が社長で元日本代表FWの城彰二がスーパーバイザーとなっています。皆さん、覚えておいてください。

J1のチームの中でも、ホームタウンの人口が少ないところがあります。ジュピロ磐田の磐田市は16万人ですから、ほぼ帯広と同じです。鹿島アントラーズの鹿嶋市は6万7千人でアントラーズは鹿嶋市周辺の都市もホームタウンとしていて、和せると30万人弱ですから、十勝とはほぼ同じ規模です。サガン鳥栖の鳥栖市は7万3千人しかいません。これらを考えると、やり方によっては十勝にもJリーグチームができて不思議ではありません。

日本のサッカーのリーグの仕組みですが、左の三角がプロで右がアマチュアです。北海道十勝スカイアースは現在どこにいるかと言うと、右の真ん中の地域リーグの中にいます。昨年は北海道リーグで優勝し、全国地域サッカーリーグ決勝大会まで行きましたが、予選で敗退してJFLには上げられませんでした。プロになるにはまず、JFL入らなければいけませんし、その中で条件を満たさなければJ3に参入できませんので、まだまだ道のりは長いです。Jリーグの経済効果ですが、最低J2に上がらなくては目に見える経済効果はないのですが、J2になれば、ホーム1試合に1000人程度のアウェー客が来るそうです。ホームゲームはおよそ年間20試合ありますので、年間2万人が来る計算になります。参考までにですが、長野の松本山雅がJ2に参入した時の経済効果が約20億円で、J1の時は約40億円だったそうです。

Jリーグ参入のための課題ですが、まずスポンサーの確保です。ちなみにコンサドーレは某お菓子メーカーがメインのスポンサーになっているのは、ご存知の方も多いと思いますが、十勝にも有名な菓子メーカーがあります。その他乳業系の会社や建設会社もたくさんありますので、スポンサーは大丈夫でしょう。スタジアムの整備ですが、帯広の森のサッカー場は非常に芝の状態も良く候補になると思いますが、J2以上となると観客席が1万人以上必要で、座席を覆う屋根が必要となります。これは、先程のスポーツ庁の事業を利用する方法もあるのではないかと思います。

そして一番難しいのが、選手の強化です。お金をかけないようにするには、地元の選手強化が必要です。そこで本日の本題ですが、選手強化をするなら子供からと言うことになります。選手強化のためには、試合をする機会を増やす必要がありますので、そこに西クラブの出番がきました。小学生を対象に参加チームを募り、サッカーの基本となるフットサルの大会を主催することにしました。通常このような大会は、1チームあたり数千円の参加費を徴収して行うのですが、その分を西クラブで負担して、多くのチームに参加してもらおうという企画です。

フットサルという名前に馴染みがない方もいらっしゃるかもしれませんが、サッカーとの違いを簡単に説明します。細かなルールの違いはありますが、大まかなところだけ説明します。人数は、サッカーが11人制でフットサルが5人制です。ボールはフットサルの方が小さくて、弾みにくいボールを使います。フットサルコートの広さは、サッカーの約9分の1です。フットサルはオフサイドはなく、ボールが外に出た時は、スローインではなく、ライン状にボールを置いてキックインします。競技時間はサッカーが45分ハーフで、フットサルは20分ハーフです。

フットサルの大会を行う上で、地区補助金を利用することを思いつき、スポーツによる地域活性化プロジェクトと称して、補助金を申請しました。これが申請書です。プロジェクト責任者は私と西クラブ奉仕プロジェクト部会長の渡辺副会長とさせて頂いております。承認された補助金は1050USD、日本円で11万5千5百円です。今年は申請が多かったらしく、満額の支給は頂けませんでした。大会運営費が13~14万円で、今後この大会を続けるのであれば、優勝カップも持ち回りにする必要があるため、若干金額が高めになります。地区補助金に関しては、同様の申請の場合は、確か3回までは認められるそうです。既に開催要項もほぼ出来上がってしまっていて、当初、帯広西ロータリークラブ会長杯という名称で考えていましたが、フットサル連盟の方で、帯広西ロータリークラブ十勝ジュニアフットサルフェスティバルという素敵な名前を考えていただきました。フットサル連盟からは、是非毎年続けて欲しいと要望がありました。今のところ大会の日程ですが、9月17日か9月30日のどちらかの予定です。場所は芽室町総合体育館です。正式に決まりましたら、例会などでアナウンスいたします。将来の日本代表候補の姿が見られるかもしれませんので、ご都合のつく会員は、是非足を運んでいただければと思います。大会の運営や設営は、すべてフットサル連盟とサッカー協会がやってくれます。私たちは賞状と優勝カップを渡すだけで、仕事はありませんので是非遊びに来てください。最後に私の妄想ですが、このフットサル大会に出場した選手が、将来北海道十勝スカイアースに入団、スカイアースがJ2そしてJ1に参入、その選手が日本代表となり、ワールドカップで日本が優勝することを想像してみると、これ以上ワクワクすることはないと思いました。最後のスライドです。今年は今まで継続して来た活動を一旦休ませていただいて、子供達のフットサルの大会を主催させていただきます。できれば、来年以降も続けていただきたいのですが、まずは今年この企画を成功させなければ話になりません。その上で来年以降の会長や社会奉仕委員長にバトンタッチできればと思っております。話し下手でお聞き苦しいところもあったと思いますが、最後までご静聴ありがとうございました。